

母校の80周年を祝う

梧桐会報

第39号

平成4年4月1日発行
発行所
梧桐会
東京都品川区豊町2-1-7
電話(3786) 3355~6
都立大崎高等学校内

編集 彦男
印刷 日正印刷
発行 渡部 良治
印刷 渡部 良治

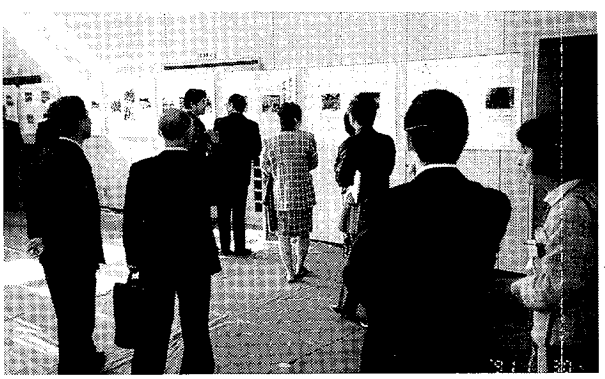
八十周年記念事業報告

実行委員長 桑原 勝男

春たけなわの今日この頃ですが、同窓会の皆様におかれましては、各部門で活躍のこととお喜び申し上げます。日頃皆様には、学校・PTAに温かいご支援ご協力を頂いており、またこの度、八十周年記念事業に對しまして、物心両面で多大なご支援ご協力を賜りまして、心より厚く御礼申し上げます。

つきましては、昨年11月30日成功裡に終了しました八十周年記念事業の実行委員長を努めさせて頂きましたので、ここに事業報告をさせて頂き

ます。八十周年記念事業を成功させるため、全日制・定時制職員、全日制PTA、全日制定時制同窓会からなる実行委員会を組織し、記念事業としては式典、祝賀会、記念誌、記念品を行なうこととしました。

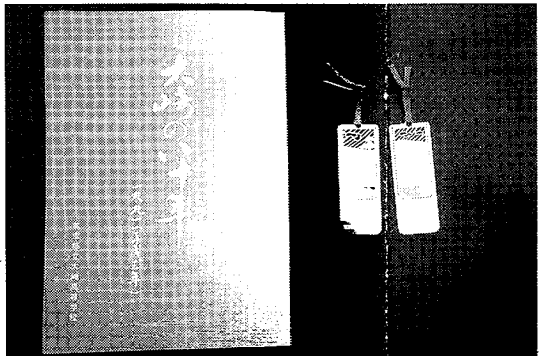


写真で見る大崎のあゆみ
歴代校長と現校長による鏡開き



中心となり、あくまで生徒の心に残るものとするため、生徒全員が式に臨み、アトラクションについても生徒による記念演奏とする。祝賀会はPTAが中心となり、大崎高校に隣接する大崎会館にて行なう。記念誌については七十周年に比し内容の充実したものとし、記念誌編集委員会が携わり、記念品は金庫栗とし、図柄は生徒先生より応募したものを採用することになりました。

前段の準備も順調に進み当日を迎えることになりました。当日は少し肌寒くもありませんが、ますますの天気で、出席者の出足も良く、予定時刻には式典が始まりました。式典には掛川校長より格調の高い式辞が述べられ、会場のみならず八十周年の重みと、本校のあゆみをあらためて振り返ることができました。



創立八十周年記念誌「大崎の八十年」と「栗」
千葉会長の祝辞



東京都立大崎高等学校
創立八十周年記念式典

母校創立八十周年を迎えて

梧桐会会長 千葉 治男

我等の母校も、創立八十周年を迎えることになりました。八十年といえは、長寿を天よりと与えられた人の一生にも擬えざる年月であります。この

母校の歴史と伝統の中で育まれた学窓より巣立った学友諸兄は、今や一万五千人に達し、それぞれ社会の各分野に立派な仕事をなし遂げ、

また現在も活躍をされており、母校は明治44年、大崎実業補習学校として開校され、大正年間、昭和初期と東京市立から東京都立の実験女学校として幾つかの改組・改称を経て太平洋戦争の終戦を迎え、大崎新制高等学校としてスタート、昭和25年には現在の地に移転してきています。

母校の歴史の中で、同窓会は昭和12年7月に、それまでの後援会組織を改組して、同窓会・梧桐会として新しく発足いたしました。それ以後でもう54年間、会報の発行、名簿の出版、総会・その他会合の開催という活動を行ってまいりました。

恒例となっており、毎年5月・母の日の総会。20年ぐらゐ前の総会では、グンズパーティもやりました。たぐさの模擬店を体育館に出店した年もありました。最近の総会では、年代を越えて各々の会員が楽しめるカラオケまで登場して、会員相互の親睦が図られております。この総会の何んといつても大きな喜びは、恩師の先生方のなつかしいお顔を拝見できることでしょう。同窓会として多くの先生方にお世話になってまいりました。

また、その中でも忘れてならない先生、それは数学科の田口健四郎先生でした。31年間も大崎に在職され、同窓会といえは田口先生という程の存在であられました。その先生も病魔には勝てず、昭和58年2月に永眠されました。享年73才。本年の八十周年を先生と一緒に迎えたらと思ひますのは、小生のみではなはいはずであります。

このように素晴らしい先生方にめぐり合せ、多くの友を得、若者の悩みの中にも輝くような青春の喜びを体験できたのは、それぞれの時代の違いはあっても自由で人間性あふれる我が母校、大崎の伝統のおかげと思っております。

今後共、母校の発展の爲同窓会として惜しみない協力をさせて頂くことを、あらためて誓うものであります。

八十周年記念誌の編集を終えて

資料の収集について

八十周年記念誌編集委員会委員長 竹内 重雄

11月30日に行われた八十周年記念祝賀会にあわせて、よくやくのことで、大崎の八十年(創立八十周年記念誌)を刊行することができました。

これも千葉同窓会をはじめ同窓会の皆様、ならびにPTA会員の皆様のご助力の賜物と存じております。

『大崎の八十年』を編集する段階で、東京都公文書館に、戦前の大崎高校の前身である大崎町立大崎女子実業補習学校以下の資料が保管されていることを知りました。その資料に沿って大崎高校の発展をたどって来ましたが、今までよくわからなかった歴史や学校の様子、教職員の在籍状況などが大変よく理解されるように

なりました。しかし、これらの資料では、創始期のこと、学校の名称を変えた時のこと、甲種実業学校に昇格した時のこと等、折目折目のことしか分らないのです。言いかえれば、その骨格は組み立てられても血となり、肉となる部分が欠けていたと言ったようなわけです。

この先、本校は九十周年を迎えて、百周年を迎えようとしております。が、第二次世界大戦による空襲で本校は罹災し、戦前のものは一切焼失してしまひ、校内には全く資料が残っておりません。百周年記念では、どの学校も大部の記念誌を発行し、しかも資

料に重点を置いて編集しております。このことを考えた時、今動かなければ「資料」も再び散佚してしまふ虞れがあります。そこで特に古い時代の資料につきまして、どんなものでもかまいませんので、今も残っているものがありましたら、ご連絡いただければ幸いです。ご提供下されば、これ以上のことはありませんが、そうでもなくとも学校の方で複写をしてお返しいたします。写真一枚でも、プリント一枚でもけっこうです。

さらに、次の様な物も欠除してありますので、補完させていただきますと念じております。

- 大崎ジャーナル 1、18、20、21、26、39、40、41、47、54、57、61、64、67、71、73、75
- 昇格記念誌(昭和10年11月)
- 創立30周年記念沿革史(昭和16年)
- 梧桐会報 1、2、5、6、24、25、32、33

○戦前に発行した「梧桐」という雑誌。何号か続いたもの。以上、どうぞよろしくおねがいいたします。

また、その中でも忘れてならない先生、それは数学科の田口健四郎先生でした。31年間も大崎に在職され、同窓会といえは田口先生という程の存在であられました。その先生も病魔には勝てず、昭和58年2月に永眠されました。享年73才。本年の八十周年を先生と一緒に迎えたらと思ひますのは、小生のみではなはいはずであります。

このように素晴らしい先生方にめぐり合せ、多くの友を得、若者の悩みの中にも輝くような青春の喜びを体験できたのは、それぞれの時代の違いはあっても自由で人間性あふれる我が母校、大崎の伝統のおかげと思っております。

今後共、母校の発展の爲同窓会として惜しみない協力をさせて頂くことを、あらためて誓うものであります。

